



と やま 輝く!!富(む)山の仕事人!!

川上～川下まで、森林・木材に関わる様々な分野で頑張る人を紹介します。



中川工業株式会社 代表取締役社長 なががわ いちろう 中川 一郎さん

今回は、富山市で総合建設業を営む中川工業株式会社の中川一郎さんをご紹介します。

中川さんは、中川工業株式会社代表取締役社長として会社を牽引するほか、富山県素材生産組合長、立山山麓森林組合副組合長などの要職も務め、富山県の森林・林業の発展に精力的に取り組んでおられます。



中川一郎さん

1 中川工業株式会社の概要

中川工業株式会社には現在26名の社員が在籍し、産業廃棄物処分業および収集運搬業、解体業、一般土木業、木材買取販売・木質チップ販売、薪販売、索道工事、モノレール架設工事、除雪作業など、幅広い業務を展開しています。

また、県内各地で伐採業を行い、毎年約1,000㎡の素材生産を実施しています。

伐採時に発生する枝葉や端材は従来、一般廃棄物として処理されていましたが、中川工業株式会社では自社工場に持ち帰り、保有するチップパー機でチップ化することで、バイオマス発電所の燃料として有効活用しています。これらの取組を通じて、循環型社会の構築にも貢献しています。

2 県内初となるタワーヤーダの導入

中川さんは、社員の労働安全性および生産性の向上を目的に、高性能林業機械の導入を積極的に進めており、現在ハーベスタ1台、グラップル10台、フォワーダ4台を保有されています。さらに昨年度には、県内で初となるタワーヤーダを導入されました。

タワーヤーダとは、伐倒した木を森林内から路網付近まで集める集材機械です。クローラをベースに、集材用ウィンチとワイヤロープを高く張り上げるためのタワーを装備しており、従来の架線集材機械に比べて必要機材が少なく、設置も容易です。加えて、本体はリモコン操作が可能で、安全性の向上にも寄与しています。

今回導入した機械は、オーストリア・コンラート社製の自走式クローラ型タワーヤーダで、車幅は2.2m。アウトリガーを張り出さずに集材が可能のため、幅員の狭い箇所でも設置できます。最大800mまで主索を張ることができ、森林作業道を開設できないような急峻地で力を発揮します。



現場で活躍するタワーヤーダ

3 おわりに

中川さんにお話を伺うと、「このタワーヤーダを自社だけでなく、県内の森林組合や林業事業者の方々にも使っていただき、操作方法や集材方法などを学んでほしい。タワーヤーダを有効に活用することにより、路網開設が困難な現場や谷越等にて集材を実施でき、県内でも普及が進んでいくと思う。そうなれば非常に嬉しい。」と語っておられました。

これからの富山県の林業を支えていく“富む山の仕事人”として、たいへん心強く感じます。今後も、中川さんのますますのご活躍をお祈り申し上げます。

文責 富山農林振興センター林政・普及班 林